根 性 桜

加藤　誓（ちかい）

岐阜県の「桜の天然記念物」は「根尾の薄墨桜」や「飛騨の臥龍桜」が有名であるが、大野町に「揖斐二度桜」があると　同町育ちの大学同期生が自慢していた。
前者の大きな古木の立派な桜ではなく、そこらにある桜に見えるが、この桜は「満開の花の中心からまた花が出てくる、珍しい桜」なのだそうだ。

先に咲いた花を突き破るように二度目の桜が咲くのである。
ただ、どの花でも起きる訳ではない。じーと探さないと見つからないのだそうだ。同期生が根気よく観察し見つけた花の写真を送信してもらった。

以前、同じような現象のバラを見たことがある。バラの花を貫いて葉や花が咲くのである。
調べてみた。「慣性花」と言うのだそうだ。ひまわりなどの花にもあるそうだが、
バラ科が多いとか。　桜は、バラ科である。

話はコロッと変わる。

お袋は、親父亡き後２０年間、９２歳まで中津川の実家で一人頑張っていたが、
平成２６年春、家の中で転び、１時間後ヘルパーさんが発見し、救急車搬送。
腰を打ち３か月間入院。その後同市のリハビリ病院で３か月間歩行訓練。

脊椎損傷で回復が難しいのではと思い、私の近くの「グループホーム」に
２７年正月に入所させることにした。車椅子・ベッドの生活を想定していたが、
リハビリ病院の皆様のお蔭と、お袋の頑張りで、何とか掴み歩きが出来るまで回復していた。
その後順調に回復し、少しおぼつかないが何とか普通に歩けるまでなった。
施設の皆様のお蔭で、食事も美味しく、笑顔で楽しい生活をおくっていた。
２８年初夏　ベッドから降りる時転倒。大事にはならなかったが、
暫く腕の痛みが続いた。
ベッド下にセンサーを付け真夜中のトイレ時も施設の方が
見守ってくれていたが転ぶのは一瞬でどうしょうもない。

平成３０年夏、トイレに行く時転倒。今度は、右腕を骨折。
整形外科病院で手術をする。施設の方の介助もあるが
幸い左利きで治るまでの生活に大きな支障はなかった。
お袋の「害のない認知症」は　痛みを感ずるのも忘れ、
不安も忘れ、暫くすると骨折したことすら忘れてしまい、何事もなかったかの様に
また楽しい生活に戻っていく。

令和元年夏、施設行事の「花火大会」に私も一緒に参加した。
楽しい夢を見たのか、その夜ベッドの柵を乗り越え転倒。
今度は、大腿骨骨折。市内の病院で手術し成功。
しかし、その時血栓が脳に飛び半身不随となって帰ってきた。
その後、流動食も食べなくなり、覚悟をした。

11 月から１か月間、毎日プリンを食わせに施設に通った。
無理やり食わせた。その甲斐あってか、食欲が出てきてゼリー食なら
OK となった。しかし片麻痺のため、何を言っているが分からない。
そのため訪問回数もだんだん減ってきた。施設の方は毎日接しているので、
何を言っているか分かるらしい。顔半分の笑顔が愛らしいとも言ってくれている。
その後、新型コロナウイルスで施設の訪問もしづらくなり、知らせがないのは元気な証拠と
やせ我慢。ゼリー食だけの毎日がもう１年半も続く。

令和３年４月３日　満百歳を迎えた。

二度咲き桜どころか、何度咲き桜か、花の中から花が咲く根性桜。

満開なお袋を見た。